

公益社団法人 日本天文学会

2014年度事業報告書

I. 出版物の刊行（定款第2章第5条2項に該当の事業）

1. 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan) : 第66巻2号-6号、増刊特集号66巻SP1号、第67巻1号の計7回刊行。総論文数138編（うちLetter 11、始原天体特集 6、VERA 特集 7、Hinode 特集 18）、総頁数1,722頁、発行部数1,000部、偶数月の25日発行。
2. 天文月報 : 第107巻5号-12号、第108巻1号-4号を刊行。総頁数798頁、総目次10頁、発行部数3,350部、毎月20日発行。
3. 年会予稿集 : 2014年秋季年会発行総頁数331頁、700部印刷。2015年春季年会発行総頁数339頁、550部印刷。
4. ジュニアセッション : 春季講演予稿集187頁、800部印刷。

II. 年会の開催（定款第2章第5条1項に該当の事業）

1. 2014年秋季年会
2014年9月11日（木）から13日（土）の3日間、山形大学（山形県山形市）にて口頭講演会場10、ポスター会場1を使って開催した。講演件数は口頭講演が473件、ポスター講演が236件の合計709件、年会参加者は920名であった。これに加えてジュニアセッション（ポスター講演のみ）の参加者が3件あった。本年会では、企画セッション3件（「SOLAR-Cで探る新しい太陽物理学とその広がり」、「電波および光赤外線での大学間連携」、「星間水素の相転移を軸とする新たな天文学」）、ジュニアセッション、天文教育フォーラムを行った。保育室を開設した。また、年会に先立ち9月10日（水）に記者発表（講演3件）を行った。9月14日（日）には公開講演会を開催し、約350名が来場した。懇親会は9月12日（金）に行い、出席者は301名であった。
2. 2015年春季年会
2015年3月18日（水）から21日（土）の4日間、大阪大学豊中キャンパス（大阪府豊中市）にて口頭講演会場9、ポスター会場1を使って開催した。講演件数は口頭講演が465件、ポスター講演が212件であり、合計677講演であった。年会参加者は989名であった。本年会では、特別セッション2件（「ASTRO-H特別セッション：ASTRO-Hが拓くサイエンス」、「東アジア天文台の現状と今後」）、企画セッション2件（「分子雲衝突と星形成」、「始動、HSC戦略枠プログラム」）、ジュニアセッション、天文教育フォーラム、林忠四郎賞・研究奨励賞受賞記念講演を行った。保育室を開設した。また、年会に先立ち3月17日（火）に記者発表（講演2件）を行った。3月21日（土）に公開講演会を開催し、261名が来場した。懇親会は3月20日（金）に行い、出席者は287名であった。

III. 代議員総会・理事会・会員全体集会及び監査（定款第6-8章第36-57条に該当の事業）

1. 代議員総会
日 時 : 2014年6月15日（日） 13:00~15:10
場 所 : 東京大学理学部1号館336号室（東京都文京区）

議 長：櫻井 隆 （議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2014年9月12日（金） 11:30～12:30

場 所：山形大学 基盤教育2号館212号室（山形県山形市）

議 長：櫻井 隆 （議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2014年12月24日（水） 17:30～18:10

場 所：国立天文台三鷹キャンパス大会議室（東京都三鷹市）

議 長：櫻井 隆 （議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2015年1月25日（日） 13:00～17:00

場 所：東京大学理学部1号館336号室（東京都文京区）

議 長：櫻井 隆 （議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2015年3月19日（木） 11:30～12:20

場 所：大阪大学 全学教育講義B棟B118（大阪府豊中市）

議 長：櫻井 隆 （議事録は学会ホームページに掲載）

2. 理事会

日 時：2014年5月25日（日）13:30～16:00

場 所：東京八重洲ホール 411号室（東京都中央区）

議 長：櫻井 隆 （議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2014年9月11日（木）19:15～20:55

場 所：山形大学 基盤教育1号館124室（山形県山形市）

議 長：櫻井 隆 （議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2014年12月7日（日）13:00～17:00

場 所：東京八重洲ホール 512号室（東京都中央区）

議 長：櫻井 隆 （議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2015年3月18日（水）19:00～20:10

場 所：大阪大学 全学教育講義A棟A203（大阪府豊中市）

議 長：櫻井 隆 （議事録は学会ホームページに掲載）

3. 会員全体集会

日 時：2014年9月12日（金）16:00～17:20

場 所：山形大学 基盤教育2号館221室（山形県山形市）

司会：中村 文隆

日 時：2015年3月19日（木）15:45～17:00

場 所：大阪大学 大阪大学会館（大阪府豊中市）

司会：中村 文隆

4. 監査

日 時：2014年4月27日（月）15:00～18:00

場 所：国立天文台三鷹キャンパスすばる棟 1F 院生セミナー室（東京都三鷹市）

出席者：尾中 敬、郷田直輝、松尾 宏、熊谷紫麻見、本原顕太郎、中村文隆、西野洋平、亀井久治公認会計士（オブザーバー）

IV. 委員会など（「日本天文学会委員会等に関する細則」に準拠）

本年度は以下の16の委員会と1の顧問において構成メンバー（任期2年の第2年目）により各種活動が行なわれた。

◇ 欧文研究報告編集顧問

編集顧問会議を2014年12月13日に国立天文台で行った。2014年までの各種統計、2014年の刊行状況などが報告された。1990年に発行した「投稿の手引き」の改訂版の発行、特に国外に向けたPASJの宣伝活動、今後の特集企画などについて検討を行った。

◇ 欧文研究報告編集委員会

2014年度は、202編の論文が投稿された。通常号を6回、増刊特集号を1回、合計7回発行し、掲載論文総数138編、総頁数は1,722頁となった。特集として、通常号では「始原天体」と「VERA」、増刊特集号では「Hinode 衛星」の論文を掲載した。また、学術論文刊行に関わる各種指針を公表している出版倫理委員会（COPE）に加盟した。

◇ 天文月報編集委員会

天文月報の編集作業を行った。3つの特集（ヘリオグラフ、フレア星、TMT）を組み、今後の特集の計画も検討した。

◇ 年会実行委員会

秋季年会（2014年9月11日～13日・山形大学）および春季年会（2015年3月18日～21日・大阪大学）を開催した。両年会の準備にあたっては、2014年7月4日および2015年1月9日に年会実行委員会を国立天文台において開き、プログラムを編成した。

◇ 天文教育委員会

年会時の公開講演会と天文教育フォーラム（共催）を開催した。次年度以降開催分についても準備を開始した。講師紹介プログラムは本年度6件紹介し、3件（時期がずれたものを含めると4件）成立した。学会 Web の更新に合わせ、教育委員会 Web および講師紹介プログラム Web を修正した。中央教育審議会へ「次世代をになう子どもに確かな科学的基礎を」と題した要望書を会長・天文教育理事名で送付した。天文教育に関する各種協力要請に精力的に対応した。

◇ 選挙管理委員会

2015年度最初の理事会で決定される会長候補者（任期：2015年度～2016年度の2年間）の選挙を定款に沿った「会長・副会長・理事・監事選考細則」に基づき行った。1名の推薦があり、会長候補者とした。以上の選挙結果を天文月報2014年12月号に報告した。

◇ 林 忠四郎賞選考委員会

天文月報2014年9月号並びに tennet で林忠四郎賞受賞候補者の推薦と、欧文研究報告論文賞候補論文の推薦を会員に依頼した。2014年12月27日に選考委員会を東京大学大学院理学系研究

科ビッグバン宇宙国際研究センターで開催し、林忠四郎賞候補 1 件、欧文研究報告論文賞候補論文 2 篇を選出し、2015 年 1 月 25 日に開催された代議員総会に推薦した。

選考の審議の後、櫻井会長から提案された、林忠四郎賞内規の改訂について意見交換を行ない、改定案を理事会に提案することとした。

◇ 研究奨励賞選考委員会

天文月報 2014 年 9 月号並びに tennet で第 26 回研究奨励賞候補者の推薦を会員に依頼した。2014 年 12 月 26 日に選考委員会を国立天文台三鷹キャンパスで開催し、候補者 3 名を選出し、2015 年 1 月 25 日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 天体発見賞選考委員会

天文月報 2014 年 9 月号で天文功労賞候補者推薦を会員に依頼した。2015 年 1 月 12 日に開催された選考委員会で、天体発見賞 3 氏 1 グループ (2 氏) 14 件、天体発見功労賞 1 氏 1 件、天文功労賞 (長期部門) 1 氏 1 件、天文功労賞 (短期部門) 3 氏 3 件の候補を選出し、2015 年 1 月 25 日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 内地留学奨学金選考委員会

天文月報 2014 年 7 月号並びに tennet で 2015 年度の内地留学奨学金奨学生の募集を行った。応募者から 2 名の奨学生 (計 25 万円の支給) を決定した。

◇ 早川幸男基金選考委員会

渡航旅費補助者の募集を 4 回行った。延べ 50 名の応募者から 19 名 (うち 2 名は交通費援助、1 名は滞在費援助、その他は全額援助) を採択した。採択率は 38% であり、応募者総数と共に前年度とほぼ同じである。援助総額は、約 462 万円であった。本会会員の佐藤明達氏より当基金へ寄付を頂いた。ここに深く感謝いたします。

◇ ネットワーク委員会

メールサーバ、年会のサーバを含む事務所内計算機を常に適正な状態に保持し、重要データ等のバックアップを適切に行った。またホームページのアップデート作業を進めた。

◇ 天文教材委員会

新しいデザインの名刺など新たな天文教材の制作についてメール上で議論したが、完成までは至らなかった。

◇ ジュニアセッション実行委員会

秋季年会にて、ジュニアセッションのポスター講演を行い、3 件のポスター発表が行なわれた。春季年会にて第 17 回ジュニアセッションを開催、予稿集を発行した。口頭及びポスター発表 55 件、ポスター発表 30 件の合計 85 件の発表が行なわれた。参加者は、生徒や教員など 400 人、及び、学会参加者を含めて合計 500 人であった。

◇ 男女共同参画委員会

例年開催されている「女子中高生夏の学校」において、天文教育委員会と共同で、中高生・教諭向けに天文学に関する研究説明、進学・キャリア相談、天体観望会を行った。主催団体の「男女共同参画学協会連絡会」には、オブザーバー学会として引き続き在籍することを決めた。また秋季年会にて「女性天文研究者の会」が主催した講演会「星空案内人資格認定制度とわたし」

(山形大学大学院生 渡邊瑛里氏による。公開天文台職員を含む 13 名出席) を共催し、春季年会では同会の夕食講演会に協力した。

◇ 衛星設計コンテスト推進委員会

主催団体の一つとして、第 22 回衛星設計コンテストを実施した。最終審査会が 2014 年 11 月 8 日に東京都港区にある機械振興会館ホールで開催され、一次審査を通過した 15 件の発表と質疑応答があった。審査の結果、日本天文学会賞は、東北大学大学院チームの「衛星ー地上間光通信技術実証キューブサット "OPT-CUBE"」に授与した。

◇ 推薦委員会

今年度の活動はなかった。

◇ キャリア支援委員会

2015 年 1 月 25 日に開催された代議員総会で承認された 2015 年度発足の委員会だが、早く活動を開始するため、2015 年 3 月 18 日に年会会場にて委員会の準備会合を行った。次の秋季年会時の天文教育フォーラムに、天文教育委員会、男女共同参画委員会と共催でキャリア支援をテーマとした企画を提案することとなった。

V. 各賞の授与（定款第 2 章第 5 条 7 項に該当の事業）

2014 年度日本天文学会各賞は、2015 年 1 月 25 日に開催された代議員総会で以下のように決定し、春季会員全体集会で授与した。

◇ 天体発見賞 [3 氏 1 グループ (2 氏) 14 件]

・板垣公一氏 9 件：

超新星 2014F の発見、超新星 2014G の発見、超新星 2014aj の発見、超新星 2014cx の発見、超新星 2014dg の発見、超新星 2014dm の発見、超新星 2014dt の発見、IC 2104 の超新星発見、超新星 2014ef の発見

・古山 茂氏 1 件：

新星 いて座 V5666 の発見

・西山浩一氏、椛島富士夫氏 3 件：

新星 ケフェウス座 V962 の発見、さそり座新星 2014 の発見、新星 はくちょう座 V2659 の発見

・西村健市氏 1 件：

超新星 2014cy の発見

◇ 天体発見功労賞 [1 氏 1 件]

・板垣公一氏：

超新星 2014ai の独立発見

◇ 天文功労賞 [4 氏 4 件]

長期的な業績

・宮坂正大氏：

「長期にわたる太陽系内小天体の位置観測と物理観測の指導普及活動、プロアマ協調における研究観測」

短期的な業績

・下田 力氏：

「4月やぎ座 α 流星群の発見」

・西村栄男氏：

「新しいPeriod Bouncer候補矮新星PNV J06000985+1426152の発見」

・佐藤英貴氏：

「長く見失われていた72P/デニング・藤川彗星の回帰検出」

◇ 林 忠四郎賞 [1氏]

・小松英一郎氏：マックスプランク天体物理学研究所所長

研究題目：「宇宙マイクロ波背景放射に基づく精密宇宙論の開拓」

“Precision Cosmology based on the Cosmic Microwave Background”

◇ 欧文研究報告論文賞 [2編]

・論文題目：「Fundamental Parameters of the Milky Way Galaxy Based on VLBI Astrometry」

著者名：Mareki Honma, Takumi Nagayama, Kazuma Ando, Takeshi Bushimata, Yoon Kyung Choi, Toshihiro Handa, Tomoya Hirota, Hiroshi Imai, Takaaki Jike, Mi Kyoung Kim, Osamu Kameya, Noriyuki Kawaguchi, Hideyuki Kobayashi, Tomoharu Kurayama, Seisuke Kuji, Naoko Matsumoto, Seiji Manabe, Takeshi Miyaji, Kazuhito Motogi, Akiharu Nakagawa, Hiroyuki Nakanishi, Kotaro Niinuma, Chung Sik Oh, Toshihiro Omodaka, Tomoaki Oyama, Nobuyuki Sakai, Katsuhisa Sato, Mayumi Sato, Katsunori M. Shibata, Satoshi Shiozaki, Kazuyoshi Sunada, Yoshiaki Tamura, Yuji Ueno, and Aya Yamauchi

出版年等：Vol. 64, No. 6, Article No. 136, 13 pp, 2012 December 25

・論文題目：「Suzaku Observations of Abell 1795: Cluster Emission to r_{200} 」

著者名：Marshall W. Bautz, Eric D. Miller, Jeremy S. Sanders, Keith A. Arnaud, Richard F. Mushotzky, F. Scott Porter, Kiyoshi Hayashida, J. Patrick Henry, John P.

Hughes, Madoka Kawaharada, Kazuo Makishima, Mitsuhiro Sato, and Takayuki Tamura

出版年等：Vol. 61, No. 5, pp. 1117-1133, 2009 October 25

◇ 研究奨励賞 [3氏]

・井上剛志氏：国立天文台理論研究部・助教

研究題目：「多相星間媒質のダイナミクスと進化に関する理論的研究」

・田中孝明氏：京都大学大学院理学研究科 物理学第二教室・助教

研究題目：「フェルミ・ガンマ線宇宙望遠鏡を用いたGeV帯域超新星残骸における宇宙線加速の研究」

・村瀬孔大氏：ペンシルバニア州立大学物理学科・助教

研究題目：「ニュートリノとガンマ線放射に関する高エネルギー宇宙現象の理論的研究」

VI. 助成金（定款第2章第5条5、7、9項に該当の事業）

◇ 早川幸男基金：

若手天文研究者の海外での研究活動のための渡航・滞在費の補助として早川幸男基金選考委員会の選定に従い19名（第85回～第88回）に対して総額約462万円の援助を行なった。

◇ 学術交流費（学生の年会参加旅費補助）：

賛助会員会費をもとに、大学院生などが秋季年会（山形大学）、春季年会（大阪大学）に参加

して研究発表をするための一部補助を行った。(発表者：32名、総額約66.6万円)

◇ 内地留学奨学金：

2名に計25万円の支給を行なった。

VII. 後援事業等（定款第2章第5条8項に該当の事業）

国際・国内シンポジウムなどの共催2件、後援14件、協賛11件を決定した。

承諾日		事業名	宛先（代表者）
4/1	後援	2014年度天文・天体物理若手夏の学校	夏の学校事務局國光太郎
4/1	協賛	第42回可視化情報シンポジウム	可視化情報学会
4/13	協賛	Plasma Conference 2014	プラズマ核融合学会
4/15	協賛	第32回レーザーセンシングシンポジウム	レーザーダ研究会
4/15	協賛	2014年URSI日本電波科学会議	電子情報通信学会
4/30	後援	青少年のための科学の祭典2014	(公財)日本科学技術振興財団
5/9	後援	伝統的七夕ライトダウン2014キャンペーン	伝統的七夕ライトダウン推進委員会
5/12	後援	第4回高校生天文活動発表会-天文高校生集まれ-	高校生天文活動発表実行委員会
5/14	後援	第10回最新天文学の普及をめざすワークショップ	国立天文台
6/19	共催	第58回宇宙科学技術連合講演会	日本航空宇宙学会
7/11	後援	第28回天文教育研究会	天文教育普及研究会
7/14	協賛	Optics & Photonics Japan 2014	Optics & Photonics Japan 事務局
7/23	後援	三鷹の森科学文化祭「みたか太陽系ウォーク」	三鷹ネットワーク大学推進機構
7/28	後援	第15回こどものためのジオカーニバル	こどものためのジオカーニバル企画委員会
8/27	協賛	日本地球惑星科学連合2015年大会	日本地球惑星科学連合事務局
9/5	後援	特別公開日「三鷹星と宇宙の日」	国立天文台
10/1	後援	益川塾第7回シンポジウム	京都産業大学
10/22	共催	JpGUセッション	名古屋大学太陽地球環境研究所
11/4	後援	第4回可視赤外線観測装置技術ワークショップ	宇宙科学研究所ワークショップ実行委員会
12/1	後援	企画展 渋川春海没後300年「渋川春海と江戸時代の天文学者たち」	国立科学博物館
2/9	協賛	可視化情報全国講演会（京都2015）	可視化情報学会
2/12	協賛	第40回光学シンポジウム	光学シンポジウム実行委員会
2/24	協賛	流体力学基礎講座	日本機械学会
2/27	協賛	日本流体力学学会2015	日本流体力学学会
3/9	協賛	第43回可視化情報シンポジウム	可視化情報学会事務局
3/16	後援	第62回全国研究大会・大阪大会	科学教育研究協議会
3/23	後援	第45回天文・天体物理若手夏の学校	夏の学校事務局北川佑太郎

VIII. 外部の各賞・研究助成等への推薦（定款第2章第5条7項に該当の事業）

外部の各種の賞および研究助成に対し、天文月報・学会ホームページ・tennet で候補者を広く募り、会長・副会長が中心となって選考した上で学会としての正式の推薦を行った。(山田科学振興財団研究援助1件、東レ科学技術研究助成1件、東レ科学技術賞1件、井上学位賞1件)

IX. 全国同時七夕講演会の開催（定款第2章第5条4項に該当の事業）

7月7日を中心とした、6月末～8月上旬に全国同時七夕講演会を国内92ヶ所、国外1ヶ所で開催した。参加者は延べ約2500名であった。

X. 事務所活動（定款第1章第2条）

日本天文学会事務所では、事務長を含む常勤職員2名と短時間契約職員6名により、本会の各事業に関する業務活動を行った。

会 員 数

2015年3月31日現在の会員数は以下の通りである。

	正会員(内学生)	準会員	団体会員	賛助会員	合 計
2014年4月1日	1,793(307)	1,151	38	42	3,024
入 会	164(142)	59	0	1	224
退 会	△86(40)	△80	0	0	△166
移 籍 (増)	7(1)	12	-	-	19
移 籍 (減)	△12(2)	△7	-	-	△19
2015年3月31日	1,866(408)	1,135	38	43	3,082

(注：移籍とは正会員、準会員との間の移動のことを指す)

(文責 庶務理事：中村文隆)